

事業者名	徳島県								
機器名	FT-IR顕微イメージングシステム								
写真									
特徴・用途	微小物・微小領域の赤外分析を行い、有機系材料の構造解析を行う。2次元分析が高速で実施できることから、高度な解析が可能。								
設置場所	徳島県立工業技術センター								
利用状況	年月	稼働日数 (日)	依頼試験・ 依頼分析 (件)	技術指導 (件)	試験設備貸出・利用		受託研究・ 共同研究 (件)	その他 (件)	利用件数 計(件)
	平成29年11月	2	0	0	件数(件)	時間(時間)	0	2	2
	平成29年12月	2	0	0	0	0	0	2	2
	平成30年1月	2	0	0	0	0	0	2	2
	平成30年2月	2	0	0	0	0	0	2	2
	平成30年3月	1	0	0	0	0	0	1	1
	平成30年4月	2	6	0	0	0	0	2	8
	平成30年5月	2	4	0	0	0	0	0	4
	平成30年6月	6	7	0	1	4	0	1	9
	平成30年7月	7	25	0	0	0	0	1	26
	平成30年8月	11	22	0	0	0	0	4	26
	平成30年9月	9	13	0	0	0	0	2	15
	平成30年10月	10	31	0	0	0	0	1	32
	平成30年11月	7	15	0	0	0	0	0	15
	平成30年12月	7	17	0	0	0	0	0	17
	平成31年1月	6	5	0	0	0	0	4	9
	平成31年2月	10	18	0	1	2	0	1	20
	平成31年3月	9	15	0	1	1	0	0	16
利用者等の声	<p>これまで、単素子を用いた測定にしか対応できなかったが、本装置によるイメージング測定結果からは、特定の吸収波数を指標とし、ケミカルイメージとして可視化できることが最大のメリットであり、本装置導入までは不可能であった結果が得られるようになった。これにより、研究開発及び製品の不良解析等に説得力のあるデータが得られ今後の研究開発に活かせるとの声が聞かれた。自動車用プラスチック材料素材開発メーカーからは、素材の熱劣化の程度を本装置により解析することができ、非常に有益な情報が得られたとのコメントをいただいた。また、食品包装材料関係企業からは、自社開発品についての評価が行え、他社製品との違いが顕著になり、今後の製品開発にフィードバックできる知見が得られたとのコメントをいただいた。</p>								
補助事業概要の広報資料	https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/document/list/kikai/h29/pdf/29-048koho.pdf								

事業者名	徳島県								
機器名	非接触式三次元スキャナ装置								
写真									
特徴・用途	測定対象物をレーザー光を用いて非接触で測定し、表面形状の三次元座標点群データを取得する装置で、リバーエンジニアリングや三次元形状測定に利用する。								
設置場所	徳島県立工業技術センター								
利用状況	年月	稼働日数 (日)	依頼試験・ 依頼分析 (件)	技術指導 (件)	試験設備貸出・利用		受託研究・ 共同研究 (件)	その他 (件)	利用件数 計(件)
	平成30年1月	10	0	2	件数(件)	時間(時間)	0	8	11
	平成30年2月	5	0	1	1	1	0	4	6
	平成30年3月	1	0	1	1	1	0	0	2
	平成30年4月	3	0	1	2	3	0	0	3
	平成30年5月	1	0	0	1	1	0	1	2
	平成30年6月	9	0	1	1	1	0	8	10
	平成30年7月	1	0	1	0	0	0	0	1
	平成30年8月	2	0	0	2	2	0	0	2
	平成30年9月	3	0	0	1	1	0	2	3
	平成30年10月	1	0	0	2	2	0	0	2
	平成30年11月	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成30年12月	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年1月	2	0	0	2	2	0	0	2
	平成31年2月	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成31年3月	1	0	0	1	3	0	0	1
利用者等の声	本装置の操作が容易であったとか、短時間で測定が完了したといった、測定作業の効率化に関する感想が多かった。また、透明色以外であれば大部分の材質の測定が可能であることや1メートル角程度の比較的大きな寸法の対象物も測定ができることについても好意的な声があった。そのほか、自由曲面が多く、へこみのある箇所を有するような対象物の測定には本装置が不可欠であるといった声や、寸法誤差を三次元的に可視化できたことが非常に価値のある情報となったという声があった。このように、従来の測定機器では困難であった測定も可能となったため、分野によっては活用範囲の幅がさらに広がる可能性があると考えられた。								
補助事業概要の広報資料	https://hojo.keirin-autorace.or.jp/shinsei/document/list/kikai/h29/pdf/29-048koho.pdf								